実施要領　様式4　　令和 5　年度　　ユニット名（　　B　棟　　）

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0292600046		
法人名	倉石ハーネス株式会社		
事業所名	グループホームおおま荘		
所在地	青森県下北郡大間町大字大間字大間平38番地519		
自己評価作成日	令和5年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	令和5年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

認知症になっても住み慣れた地域で、馴染みの生活を継続しながら、一人ひとりの能力に応じて、できるだけ自立した生活を維持できるように努めています。コロナ禍で自由に面会ができなかったり、外出が制限される等、不自由な生活の中でも、できるだけオンラインの面会を行ったり、通院時の面会・電話でお話をされる等、可能な限り、ご家族様や知人とのつながりが途切れないよう、工夫しながら対応させていただきました。桜の時期には数回に分けてドライブや近場に出かけたり、受診帰り等もちょっと寄り道しながら、少しでも気分転換につながるように努めています。今年は久しぶりに町のお祭りが開催され、山車や神楽の行列等が来てくださり、たくさんの笑顔を見ることができました。また、食事についても季節を感じていただくよう、近所の方からの野菜の差し入れを一緒に下拵えしたり、メニューを考える等、四季を感じながら過ごせています。秋に「おおま荘祭り」を行う予定です。ここ3年祭りを開催していなかったこともあり、利用者様から意見をいただき、それを会議で話し合い、秋ということで、食べることをメインにした祭りを実行することになっています。今後も利用者様を中心に、五感を刺激しながら、落ち着いた生活ができるよう、支援していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で、その人らしく」という理念は職員と一緒に考えており、職員一人ひとりの思いが根本にあり、理念の形になっている。なるべくその人らしさを大切にし、利用者本位の考えにつながるよう、理念を意識し、実践につなげるように努めている。理念は玄関に掲げ、職員の目につくように掲示している。		
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策のため、交流はしていない。近所の方々から地元で採れた野菜等の差し入れがあったり、家族からの差し入れ等もあり、つながりは少ないものの、途切れてはいない。また、地域の会議にも感染対策を行いながら参加させていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症実践者研修に参加し、認知症の知識や理解を深めるように努めている。また、見学の時や申し込みの時には、認知症の方々の理解や支援の方法を話し合ったり、家族が困っている事の相談を聞く環境作りに努めている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、施設の状況報告を行ったり、地域の方々から意見をいただきながら、サービスの向上に努めていけるように取り組んでいる。		
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルスに対する対策を組織で話し合い、取り組んできた。また、役場や関係機関とも話し合いの場を設け、連携できる環境作りができている。運営推進会議にも町の職員に参加していただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないという取り組みをしている。適宜ユニット会議で対策の検討をし、今のところ身体拘束には至っていない。身体拘束が必要な時は家族の理解をしっかりいただき、書面で同意を取るようにマニュアル化している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関するマニュアルを作成し、掲示している。内部研修を行い、身体的な虐待や言葉の虐待を理解してもらっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加している。必要があれば、関係機関に相談できる環境を整えている。また、情報共有をしながら、必要に応じて対応させていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、利用者や家族にホームの特徴や取り組み等を説明し、意見や要望を聞きながら、理解・納得をしていただいている。退居の際は、家族が困らないように転居先の情報を提供したり、関係機関と連携を図りながら支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族とは面会や普段の生活の中で会話する機会を持ち、意見や要望を聞くようにしている。意見や要望がある場合は速やかに検討するように努め、解決に向けて話し合うように努めている。また、玄関にご意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議やユニット会議で話し合う環境を作っている。また、月１回、法人の福祉部会議にて、各事業所の様子を報告したり、情報交換を行い、業務の改善や反映につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則はいつでも閲覧できる環境にしている。健康診断を年２回実施し、職員の健康管理と把握を行っている。また、資格手当の支給や休暇が取りやすいよう、人員配置の配慮をし、職員が働きやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修に毎年参加している。また、外部研修として、オンライン研修にも参加している。希望があれば、研修に参加できる環境作りに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特別養護老人ホームの推進委員になっているため、2ヶ月に1回会議に参加し、情報収集や情報交換、交流を図り、利用者のサービス向上に向けて、相談や意見、アドバイスをいただきながら、質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で、本人と面談しながら、困っている事や不安、希望等を話し合っており、施設での生活に不安がなく、安心できる環境・関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅のケアマネジャー等を交え、情報共有をしながら、家族の困っている事や要望等に耳を傾け、関係作りに取り組んでいる。また、不安がある時はいつでも面談や相談していただくよう、声がけをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスに応じて、地域包括支援センターや介護支援事業所と連携を図り、協議しながら、その時のサービスに最善を尽くせるよう、対応・支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存能力を発揮できるように個別ケアに努めており、その人らしく生活できるよう、日々のコミュニケーションを多くとりながら、関係作りに努めている。また、孤立しないように気を配りながら、支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には電話や広報誌で利用者の様子をお伝えしながら、情報共有をしている。時には協力をいただきながら、一緒に支援できるよう、関係作りに努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在も面会には制限を設けており、面会時間は15分程度として、家族等との交流をしていただいている。また、毎年のお祭り時には行列・山車等に、地域の一員として施設に訪問していただき、季節を感じていただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりに担当を決め、利用者の状況をより把握できるように取り組んでいる。月1回のユニット会議で、利用者の問題点や困っている事を全体で共有し、孤立につながらないように支え合える関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、何か困った事や相談があれば、いつでも相談できるように声がけをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が希望や意向に対応している。困難な場合は、必要に応じて家族にも支援の協力をいただきながら、対応に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネジャーや家族、本人から情報収集し、生活歴の把握に努めている。また、利用者が安心して、入居後の環境変化に対応できるよう、支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送り、連絡ノートの活用等で利用者の状況を把握し、対応に努めている。また、職員間で常に報連相を密にしながら、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議で一人ひとりの課題やケアを検討しながら、介護計画を作成している。介護計画はケース記録にも挟み、常に確認しやすいようにしている。また、状態が変化した時はモニタリングし、計画の変更を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況等について、個別ケース記録に記入している。また、朝の申し送りの他、特に重要連絡な事項がある時は別途連絡ノートに記入し、確実に情報共有ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域のニーズに応え、デイサービスも行っている。地域と共に支え合えるよう、できる限り柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策のため、老人クラブ等との交流ができていない。今後は状況を見ながら、活動団体とのつながりを増やしていきたい。また、ホーム内の行事を少しでも増やし、利用者の楽しみにつなげていけるように努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を整えており、毎週火曜日に看護師が来荘し、健康管理を行っている。また、必要に応じて往診や訪問看護を受けられるように連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回のバイタル測定の実施等により利用者の健康状態を把握し、状況に応じて訪問看護につなげている。また、常に職員間で連携して利用者の健康管理に努め、適切な受診ができる体制作りに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は家族や医療と連携し、情報交換をしながら関係作りを行っている。また、カンファレンスやムンテラにも同席させていただき、情報収集を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取組んでいる	家族や医療、施設でできる支援を話し合いながら取り組んでいる。必要に応じて医療にも情報提供を行いながら、アドバイスをもらい、家族や本人の要望や希望を考慮して、チームで支援に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ感染対策のため、少人数で救急救命講習を行い、実践に対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練は職員人数が少ない夜間を想定した総合訓練を実施している。今後も年2回、避難訓練を予定している。緊急時の連絡網を作成し、電話の前に貼り出し、目に付くようにしている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの言葉を取り入れながらも、言葉遣いや抑揚に気をつけて、利用者のプライバシーや人権を尊重し、礼節を心がける対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人本位を心がけ、自分の思いを表現できるように働きかけたり、自己決定できる言葉がけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを理解し、柔軟な支援を心がけている。可能な限り希望に沿って支援できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの生活を尊重し、希望の美容院や理容店への外出支援にも努めている。また、出かけるのが困難な利用者については、馴染みの理容院にもお願いし、協力していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできる事を把握しながら、テーブル拭きや皮むき、食器拭き等、利用者が役割を持って生活できるように努めている。おやつ作りや煮しめ等の行事食作りも、利用者と一緒に行っている。地域の方から季節の野菜をただくことも多くあり、下拵えから一緒に行い、献立に取り入れている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量や食事量を記録に残しており、確認しながら、一人ひとりに合わせて柔軟に支援している。また、熱中症や便秘対策もあり、こまめに水分補給をして、記録しながら職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。必要に応じて声がけや介助を行い、モアブラシを活用しながら、肺炎予防や清潔保持に努めている。歯ブラシも毎日消毒し、清潔に使用できるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を作成し、尿間隔を見ながら支援に取り組んでいる。声がけで自分で行える方には時間で誘導する等、できるだけ尿失禁なく生活できるように取り組んでいる。失禁時には声がけに配慮しながら、支援に努めている。オムツやリハビリパンツ、尿パットの使用については、ユニットで十分に検討しながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取組んでいる	自然排便に努め、腹部マッサージやこまめな水分補給、体操等に取り組んでいる。どうしても困難な時は、医療に相談しながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	最低週2回を目安に、状態や希望に合わせて対応している。入浴の順番や方法も本人の思いを尊重している。浴槽をまたぐことが困難な方は、二人介助での入浴としている。また、シャワー浴の時は寒くならないよう、工夫しながら行っている。入浴困難な時には全身清拭や足浴で清潔を保持し、気持ち良く生活できるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣やパターンを把握し、日中の活動時間や質に気を配りながら、安眠できるように柔軟に対応している。スムーズに入眠できない時は、話し相手になったり、状況を見て対応している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録を作成し、全員が確認して業務をするように努めている。内服に変更がある時は記録と口頭で情報を共有し、誤薬がないように注意しながら対応している。また、内服マニュアルを作成し、誤薬がないよう、職員二名で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考に、馴染みの活動を継続できるよう、一人ひとりに合った作業の参加の声がけをしている。居室で過ごすことが多い方には訪室し、コミュニケーションを取りながら、思い等の把握に努め、役割や楽しみ事への支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策のため、買い物はほとんど職員が代行している。受診時に売店等で買える物については、本人に選んでもらい、支払いも一部介助で行える方にはお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金銭は施設管理とさせていただいているが、利用者の能力や希望に応じて、家族の了解があれば金銭管理を行えるよう、家族と本人と施設で金額を決め、所持できるように支援している。受診時等、買い物の希望があれば、自分で支払いができるように見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時は必要に応じお手伝いし、自由にかけていただいている。また、訴えが困難な方にはこちらから声がけし、家族等とやり取りができるよう、支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ちぎり絵等、利用者と一緒に季節に合った装飾作りに取り組んでいる。また、季節の花々を職員が自主的に差し入れてくれることもあり、季節感を味わえる環境である。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを設置しており、利用者が思い思いの場所で、自由に過ごせるように工夫している。また、利用者が孤立しないよう、職員が配慮しながら支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族には、馴染みの物を持参して良いことを伝えている。使い慣れた掛布団や枕、時計等を持参されている方が多い。また、遺影や位牌等を持参し、毎日お水をあげて拝んでいる方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	決まったイスやテーブル席が安心できることもあり、利用者の精神状況等を考慮して、穏やかに、できるだけ自立した生活ができるように工夫している。場所の見当識がある場合は目印を付ける等、混乱がないように取り組んでいる。		